

2017年12月6日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL17-65

47 都道府県の 2 型糖尿病患者さんの残薬に関する調査 医師の指示通りに服薬できなかった回数 1 位は「沖縄県」

～ 「食事のタイミングが不規則」、「外出の際に持っていくのを忘れる」などライフスタイルに課題 ～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は、全国 47 都道府県の経口治療薬服薬中の 2 型糖尿病患者さん 2,942 名を対象に残薬に関する調査を実施しました。

今回の調査の結果、全国の 2 型糖尿病患者さんが処方されている経口治療薬(経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬)について、医師の指示通りに服薬できなかった 1 カ月あたり^{※1}の平均回数^{※2}は 5.1 回となり、残薬率^{※3}は 1 カ月あたり平均 3.1%であることがわかりました。また、今までに医師の指示通りに服薬できなかった経験がある患者さんは、全体の 35.8%に上りました。

<沖縄県の 2 型糖尿病患者さんについて>

調査結果のうち、沖縄県の 2 型糖尿病患者さん(対象:44 名)の服薬状況について見ると、医師の指示通りに服薬できなかった 1 カ月あたりの回数は平均 10.0 回と全国平均の約 2 倍となり、全国で最も多いことがわかりました。また、残薬率は 1 カ月あたり 6.0%で、こちらも全国平均の約 2 倍となりワースト 1 位となりました。

合わせて、直近 1 カ月で医師の指示通りに服薬できなかった患者さん(対象:22 名)に、服薬しないことがある理由を聞いたところ、「特に理由はないが、ついすっかり忘れてしまうから」(50.0%)、「食事のタイミングが不規則で、飲むタイミングを逸してしまう」(36.4%)、「外出の際に持っていくのを忘れる」(31.8%)といった声が聞かれました。どうすれば飲み薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「薬の一包化」(34.1%)が最も多く、次いで「服用する飲み薬の種類を減らす」(15.9%)、「服用回数の少ない飲み薬に変更する」(15.9%)との回答が多くなりました。

今回の調査から、沖縄県の患者さんは糖尿病治療に取り組む上で、不規則な食事のタイミングや外出時など、ライフスタイルと治療とのバランスを取ることが難しく、患者さんそれぞれが適切な治療にどのように適合していくか課題を抱えていることが示唆されました。

医師の指示通りに服薬できなかった
1 カ月あたりの回数ランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	回数	全国 平均
1	沖縄県 (44)	10.0回	5.1回
2	大阪府 (113)	8.8回	
3	福岡県 (110)	8.3回	
4	富山県 (34)	8.1回	
5	秋田県 (33)	7.4回	
⋮			
47	岐阜県 (51)	1.8回	

1 カ月あたりの残薬率ランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	割合	全国 平均
1	沖縄県 (44)	6.0%	3.1%
2	大阪府 (113)	5.3%	
3	高知県 (38)	5.1%	
4	秋田県 (33)	5.0%	
5	富山県 (34)	4.9%	
⋮			
47	埼玉県 (111)	1.5%	

【沖縄県の2型糖尿病患者さんに関する主な結果】

＜残薬状況とその理由＞

- ◆ 現在処方されている経口治療薬(経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬)の種類は平均 4.2 種類となり、全国平均の 4.1 種類をやや上回った
- ◆ 現在処方されているすべての経口治療薬の 1 カ月あたりの服薬回数は平均 175.2 回となり、全国平均の 169.2 回を上回った
- ◆ 医師の指示通りに服薬できなかった 1 カ月あたりの回数は平均 10.0 回となり、**全国で最も多い結果**となった
- ◆ 1 カ月あたりの残薬率は 6.0%となり、**全国平均の 3.1%の約 2 倍でワースト 1 位**となった
- ◆ 今までに医師の指示通りに服薬できなかった経験がある患者さんは 38.6%(全国平均 35.8%)
- ◆ 処方通りに服薬しないことがある理由について(対象:直近 1 カ月で医師の指示通りに服薬できなかった経験がある患者さん 22 名)
 - 1 位:「特に理由はないが、ついすっかり忘れてしまう」(50.0%)
 - 2 位:「食事のタイミングが不規則で、飲むタイミングを逸してしまうから」(36.4%)
 - 3 位:「外出の際に持っていくのを忘れるから」(31.8%)

＜残薬の申告状況＞

- ◆ 処方されている経口治療薬すべてについて、残薬があることを医療従事者に申告しているか聞いたところ、11.4%の人が残薬を申告していないと回答(全国平均 26.5%)

＜残薬の改善方法＞

- ◆ どうすれば飲み薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「薬の一包化」(34.1%)、次いで「服用する飲み薬の種類を減らす」(15.9%)、「服用回数の少ない飲み薬に変更する」(15.9%)との回答が多かった

※1 1カ月の日数について:本調査での1カ月の日数は、28日換算です

※2 服薬回数について:本調査での服薬の回数は、1日に複数回または1日に複数種類の服薬をしている場合、それらを合算した延べ回数として集計しています

※3 医師の指示通りに服薬できなかった回数を実際の服薬回数で割った1カ月あたりの割合

【調査概要】

調査目的 : 47 都道府県の 2 型糖尿病患者さんを対象に、経口糖尿病治療薬の残薬の有無に影響する因子を明らかにする

調査対象 : 20 歳以上で医師から 2 型糖尿病の診断がなされており、かつ現在通院中で薬物療法を行っている患者さん(2,942 名)※内訳は以下の通り

北海道(118)	青森県(33)	岩手県(52)	宮城県(105)	秋田県(33)
山形県(41)	福島県(52)	茨城県(106)	栃木県(54)	群馬県(54)
埼玉県(111)	千葉県(112)	東京都(126)	神奈川県(111)	新潟県(56)
富山県(34)	石川県(33)	福井県(40)	山梨県(31)	長野県(53)
岐阜県(51)	静岡県(112)	愛知県(114)	三重県(55)	滋賀県(33)
京都府(104)	大阪府(113)	兵庫県(108)	奈良県(57)	和歌山県(35)
鳥取県(34)	島根県(48)	岡山県(53)	広島県(107)	山口県(33)
徳島県(38)	香川県(34)	愛媛県(35)	高知県(38)	福岡県(110)
佐賀県(40)	長崎県(32)	熊本県(34)	大分県(47)	宮崎県(45)
鹿児島県(33)	沖縄県(44)			※()の中は有効回答数

調査地域 : 47 都道府県

調査手法 : インターネット、郵送または訪問留置による調査(実査は株式会社メディリードに委託)

調査時期 : 2017 年 4 月 24 日～5 月 16 日

備考 : 全国の値はウェイトバックを実施

【主な調査結果】

＜残薬状況とその理由＞

- ◆ 現在処方されている経口治療薬（経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬）の種類は平均 4.2 種類となり、全国平均の 4.1 種類をやや上回った
- ◆ 現在処方されているすべての経口治療の 1 カ月あたりの服薬回数は平均 175.2 回となり、全国平均の 169.2 回を上回った
- ◆ 医師の指示通りに服薬できなかった 1 カ月あたりの回数は平均 10.0 回となり、**全国で最も多い結果**となった

医師の指示通りに服薬できなかった
1 カ月あたりの回数ランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	回数	全国 平均
1	沖縄県 (44)	10.0回	5.1回
2	大阪府 (113)	8.8回	
3	福岡県 (110)	8.3回	
4	富山県 (34)	8.1回	
5	秋田県 (33)	7.4回	
6	鳥取県 (34)	7.2回	
7	群馬県 (54)	6.9回	
8	山口県 (33)	6.6回	
9	宮城県 (105)	6.5回	
10	千葉県 (112)	6.1回	
⋮			
47	岐阜県 (51)	1.8回	

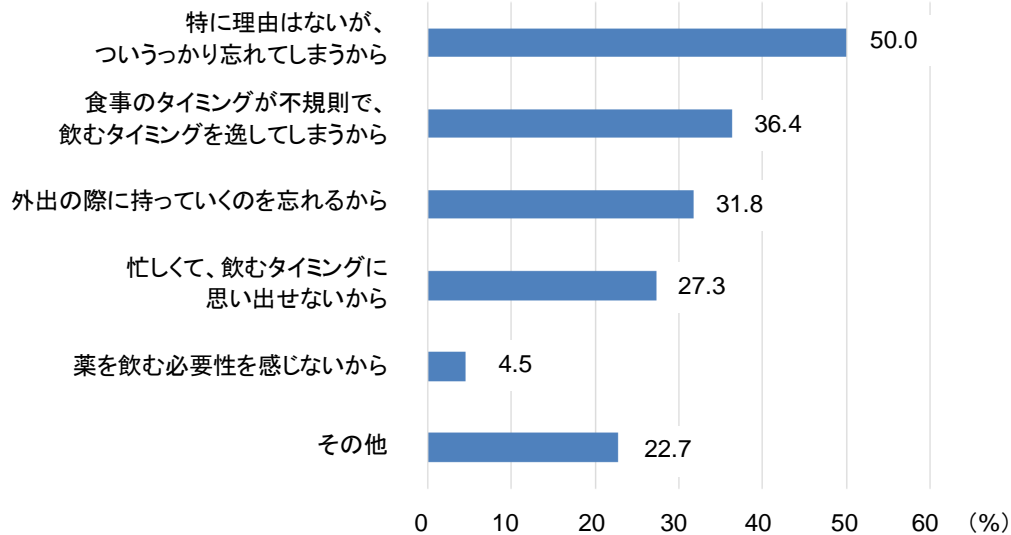
- ◆ 1 カ月あたりの残薬率は 6.0%となり、**全国平均の 3.1%の約 2 倍**で全国ワースト 1 位となった

1 カ月あたりの残薬率ランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	割合	全国 平均
1	沖縄県 (44)	6.0%	3.1%
2	大阪府 (113)	5.3%	
3	高知県 (38)	5.1%	
4	秋田県 (33)	5.0%	
5	富山県 (34)	4.9%	
6	群馬県 (54)	4.7%	
7	宮城県 (105)	4.2%	
8	福岡県 (110)	3.7%	
9	北海道 (118)	3.5%	
10	三重県 (55)	3.5%	
⋮			
47	埼玉県 (111)	1.5%	

- ◆ 今までに医師の指示通りに服薬できなかった経験がある患者さんは 38.6% (全国平均 35.8%)
- ◆ 処方通りに服薬しないことがある理由について (直近 1 カ月で医師の指示通りに服薬できなかった経験がある患者さん: 22 名)
 - 1 位: 「特に理由はないが、ついすっかり忘れてしまう」(50.0%)
 - 2 位: 「食事のタイミングが不規則で、飲むタイミングを逸してしまうから」(36.4%)
 - 3 位: 「外出の際に持っていきのを忘れるから」(31.8%)

Q. 処方された飲み薬を服用しないことがある理由をお教えてください。(n=22)



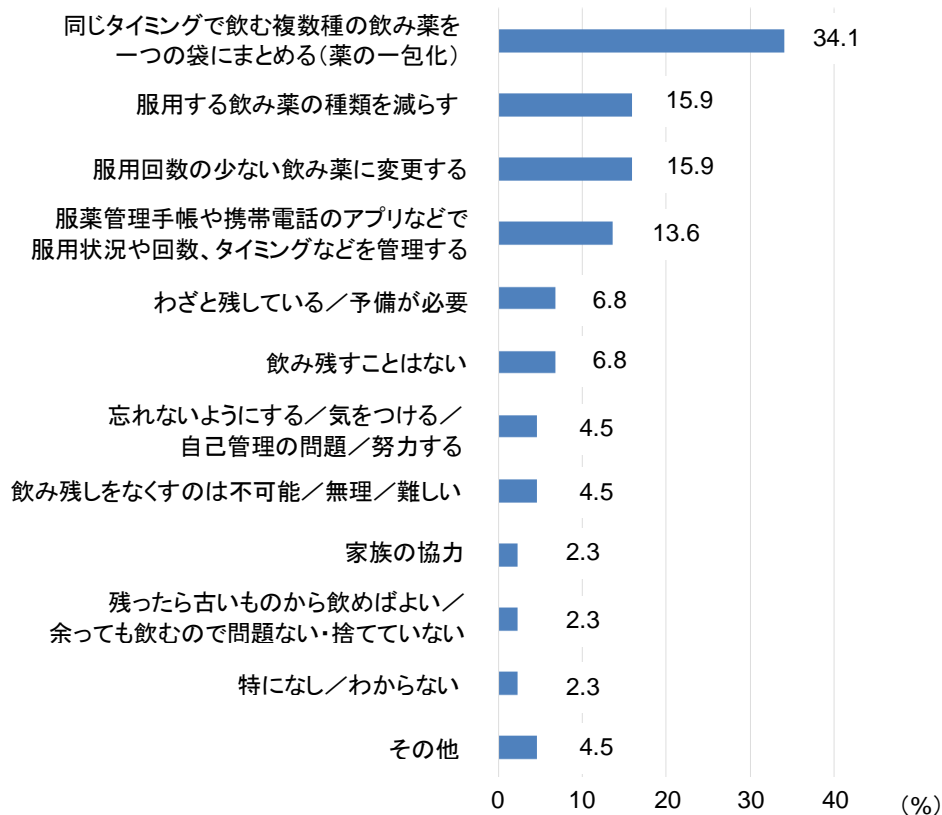
<残薬の申告状況>

- ◆ 処方されている経口治療薬すべてについて、残薬があることを医療従事者に申告しているか聞いたところ、11.4%の人が残薬を申告していないと回答 (全国平均 26.5%)

<残薬の改善方法>

- ◆ どうすれば飲み薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「薬の一包化」(34.1%)、次いで「服用する飲み薬の種類を減らす」(15.9%)、「服用回数の少ない飲み薬に変更する」(15.9%)との回答が多かった

Q. どうすれば残すことなく飲み薬をすべて服用できるようになりますか。(n=44)



イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは 1923 年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病をもつ人々やケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病をもつ人々の生活の改善に努めます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lillydiabetes.com>

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、それを必要とする人々の人生を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels>

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>